

観光振興計画・観光地マスタープラン検討会（第6回：最終とりまとめと来年度以降に向けて）

- 第6回検討会では、これまでの議論において一部不確定だった開発容量の目安の検討を行った。また、次年度以降、できあがったマスタープランのローリング方法について議論するとともに、今後のスマートリゾート化において必要となってくるリアルタイムな観光客データの取得について、外部情報を入れてイメージ共有を図っている。

■ 第6回検討会

○日時：令和2年1月29日（水） 14時～17時

○場所：倶知安町役場3階会議室

○参画者：観光関連団体、観光関連事業者



■ 参加者一覧

○検討会メンバー

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|----------------------|
| ・山田洋 | North Design 株式会社 | ・田中義人 | ニセコリゾートサービス |
| ・大久保実 | Japan Premium International | ・阪井啓司 | つばらつばら |
| ・冨田竜海 | 株式会社ジャパンパシフィックマネージメント | ・田中千絵 | H T M |
| ・天沼清貴 | (一社) 倶知安観光協会〈地域DMO候補法人〉 | | |
| ・ラミズ麻衣 | (一社) 倶知安観光協会〈地域DMO候補法人〉 | | |
| ・渡辺淳子 | グラウビュンデン | ・大加田正信 | (一社) ニセコひらふエリアマネジメント |

○事務局

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| ・文字一志 | 倶知安町長 | ・福家朋裕 | 倶知安町観光課 観光課長 |
| ・沼田尚也 | 倶知安町観光課 観光係長 | ・奥山琢矢 | 倶知安町観光課 観光係主事 |
| ・田中康太 | 倶知安町観光課 観光係主事 | ・星加明仁 | 倶知安町まちづくり新幹線課 まちづくり係長 |
| ・山田雄一 | 公益財団法人日本交通公社観光政策研究部 | | 部長 |
| ・守屋邦彦 | 公益財団法人日本交通公社観光政策研究部 | | 主任研究員 |
| ・池知貴大 | 公益財団法人日本交通公社観光政策研究部 | | 研究員 |

○オブザーバー

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|-----------|
| ・東内学爾 | (一社) ニセコプロモーションボード | ・高橋葉子 | ニセコ町商工観光課 |
|-------|--------------------|-------|-----------|

○話題提供

- ・KDDI 株式会社ビジネスマネジメント本部ウェルネスマネジメント部

第6回検討会概要・議論要旨

■ 議題、主な意見

○開発容量の上限目安について

- ・スキー場での体験価値を維持するという考え方から、スキー場リフトのキャパシティから導き出した18,000ベッドが開発容量の上限の目安となる。
- ・開発容量の上限を超えさせないためには、様々な手段を掛け合わせて実行していく事が求められる。

○シンボルゲート整備について

- ・シンボルゲートについては、第一駐車場をリノベーションし交通機能を含めて人が集まるように整備するという方向自体は良く、駐車場とゲレンデのつなぎなど具体的な内容については来年度以降に議論を継続していく必要があるのではないかと。
- ・将来的な不確定要素を考慮すると、サンスポーツランドについては、その後の開発動向や需要動向をみながらバッファの場所として維持した方がいいのではないかと。
- ・交通の問題については、ハードだけでは解決できないので、ソフト面での整備も併せて対処していくべきではないかと。

○来年度以降の観光地マスタープランのローリングについて

- ・マスタープランのローリングについては、プロジェクトチームとしてそれぞれのプロジェクトがどのように進捗しているのかを含めて、全体管理をしながら進めていく体制を構築する必要があるのではないかと。

○観光客データの取得について

- ・宿泊客からのデータ回収は必要なことであるが、具体的なデータ回収システムについては、現場のニーズを踏まえながら、どのような機能が必要なのかを議論し、アジャイル型で構築していくのが良いのではないかと。